９月号 病害虫防除

９月に入るとナシやブドウの収穫は終盤を迎えます。一方、ミカンでは極早生品種の収穫が始まります。いずれの樹種でも収穫前の防除をしっかり行いましょう。落葉果樹では次年度のために秋季防除が重要です。

収穫作業に追われて、病害虫の発生に気付くのが遅れる場合があるため、収穫前に今一度園内を観察して、必要な場合には防除を行いましょう。

また、台風の襲来時期でもあります。カンキツかいよう病やモモせん孔細菌病等は台風等の強風雨で感染が拡大することから、襲来前の防除対策が必要です。

＜果樹類共通 果樹カメムシ類＞

佐賀県農業技術防除センターから発表された令和３年７月29日付け病害虫発生予察情報第４号によると、本虫の新世代の果樹園への飛来時期は、県平均として概ね９月２半旬頃と予想されています。ただし、本虫の発生状況や飛来時期は地域や園によって異なるため、県内各地に設置している予察灯やフェロモントラップによる本虫の誘殺状況、ヒノキ毬果上の寄生数及び口針鞘数等のデータ（農業技術防除センターHP:https://www.pref.saga.lg.jp/list00080.html）を参考にするとともに園内を見回って、飛来や加害が確認された場合は薬剤防除を行ってください。

＜露地カンキツ＞

〇黒点病対策

秋雨時期も本病の主要な感染時期のため、防除を徹底してください。収穫前日数や使用回数に注意して、マンゼブ水和剤（ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤　※両薬剤とも、温州ミカンは 400 ～600倍・収穫 30 日前まで、その他カンキツ類では 600 倍・収穫 90 日前まで、使用回数は年 4 回以内）を散布します。ただし、すでにマンゼブを含む農薬を４回使用している場合は、ナティーボフロアブル　1,500倍（収穫前日まで）やストロビードライフロアブル　2,000倍（収穫14日前まで）を選択します。

〇褐色腐敗病対策

本病が発生したことのある園は下枝吊りやマルチ被覆を行い、土壌中に生息する病原菌が雨滴等とともに跳ね上がって果実に付着しないようにします。また、発病した果実は伝染源となるため、早急に除去して園外で適切に処分してください。そのままにしておくと急速に発生が拡大します。

本病は黒点病防除に使用するマンゼブ水和剤（ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤）で同時防除できます。発生が問題となる園で８月下旬にマンゼブ水和剤を散布していない場合は直ちに散布しましょう。なお、マンゼブを含む農薬をすでに4回使用した場合や収穫間際に発生がみられる場合は、収穫前日まで使用できるランマンフロアブル2,000倍やレーバスフロアブル

2,000倍、アリエッティ水和剤　400倍のいずれかを散布します。ただし，アリエッティ水和剤は高温時に散布すると日焼け果の発生を助長する場合があるので、早朝の涼しい時間帯に散布しましょう。

〇果実腐敗（緑かび病等)対策

腐敗果をみつけた場合は早急に取り除き、園外で適切に処分してください。ハナアザミウマ類による被害果（後述）も果実腐敗が発生しやすいため取り除きます。

薬剤散布は、収穫７～10日前にベンレート水和剤4,000倍またはトップジンM水和剤2,000倍とベフラン液剤25 2,000倍の混用散布またはベフトップジンフロアブル1,500倍を散布します。薬液を調整する際は、必ずベンレート水和剤かトップジンM水和剤を先に溶かしてからベフラン液剤を溶かしてください。逆の順で溶かすと沈殿を生じます。なお、ベンレート水和剤、トップジンM水和剤、ベフラン液剤25はそれぞれの単用散布では効果が劣るため、必ず先述したような混用散布を行ってください。また、散布の際は薬液が霧状に出るディスクノズル(新広角二頭ロノズル等)を使用して、果実を１個１個包み込むように丁寧に行ってください。

本病原菌は傷口から感染するため、最も重要なことは果実に傷をつけないことです。降雨後等の果実が濡れている状態の果皮は傷つきやすいため収穫はしないでください。収穫前に収穫かごやコンテナが汚れていないか、石や枝くずなど傷の原因になるものがないかよく確認します。収穫時はハサミ傷や落果等で傷をつけることがないよう丁寧に取り扱ってください。

今月号に果実腐敗の記事が記載されていますので、参考にしてください。

〇かいよう病

コサイド3000　2,000倍（クレフノン200倍加用）等の銅水和剤を散布します。前回の薬剤散布から累積降雨量150～200mmもしくは散布後20～25日を目安に再散布してください。ただし、台風等の襲来が予想される場合は、襲来７日前～前日までに散布します。前年かいよう病が多発した園や、かいよう病に弱い品種（レモン、いよかん、はるみ等の中晩柑）、高糖系温州が植栽された園、幼木園、高接園、風当たりが強い園、隔年交互結実栽培の遊休年の園等では、防除を徹底してください。

ミカンハモグリガによる被害痕は病原菌の侵入口となり、本病の感染を著しく助長します。そのため、新梢伸長～硬化期に防除を行い、被害葉はできるだけ取り除きましょう。

〇アザミウマ類対策

チャノキイロアザミウマに対して８月中旬以降防除をしていない園では、９月上旬にベストガード水溶剤　1,000倍、モスピランSL液剤　2,000倍等を散布してください。ミカンサビダニと同時防除する場合は、コテツフロアブル　4,000倍やアグリメック　2,000倍を散布します。

また、梅雨明け以降高温・乾燥が続くとハナアザミウマ類の発生が多くなります。本虫は着色期以降に果実と果実・葉が接している部分に寄生して、果皮表面を食害します。食害された部分

は果実腐敗の原因となるため、園内で被害を確認したら、早急に薬剤散布をしてください。薬剤はハチハチフロアブル　2,000倍やスピノエースフロアブル　4,000倍等を使用します。

なお、園周辺の雑草の花等はハナアザミウマ類の増殖源であるため、開花前に除草してください。

〇ミカンハダニ、ミカンサビダニ対策

ミカンハダニは低密度時の防除が効果的なので、発生を確認したらすぐに防除を行いましょう。また、抵抗性の発達を避けるため、昨年及び本年使用した殺ダニ剤は使用しないでください。

ミカンサビダニの被害が認められた場合は、早急に防除を行ってください。使用する薬剤は表を参考に選択してください。

表　ミカンハダニ、ミカンサビダニに対する薬剤の例

対象害虫		薬剤	希釈倍数
ミカンハダニ		コロマイト水和剤	2,000 倍
		カネマイトフロアブル	1,000 倍
		スターマイトフロアブル	2,000 倍
		ダニコングフロアブル	2,000 倍
ミカンハダニ	＋ミカンサビダニ	ダニゲッターフロアブル	2,000 倍
		ダブルフェースフロアブル	2,000 倍
		ダニエモンフロアブル	4,000 倍
		スターマイトプラスフロアブル	1,000 倍
		メビウスフロアブル	2,000 倍
ミカンサビダニ		サンマイト水和剤	3,000 倍
		ダニカット乳剤20	1,000 倍
		マイトコーネフロアブル	1,000 倍

＜ナシ＞

〇黒星病対策、炭そ病対策

‘新高’等の晩生品種が混植されている園では、アミスター10フロアブル　1,000倍（収穫前日まで）やストロビードライフロアブル3,000倍（収穫前日まで）を散布します。

収穫が終了した園では、デランフロアブル1,000倍（収穫60日前まで）、キノンドーフロアブル1,000倍（収穫３日前まで）等を散布します。その際、周囲に収穫が終わっていない園があれば、薬液が飛散しないよう十分に注意してください。

〇ハダニ類

ハダニ類の発生がみられる園では、コロマイト水和剤2,000倍、カネマイトフロアブル1,000倍等を散布します。発生初期の防除が最も効果的ですので、収穫後でも園内の発生状況を観察し、

発生が認められたら早急に防除を行ってください。

〇フタモンマダラメイガ対策

９月中旬頃までにフェニックスフロアブル4,000倍を主幹、主枝に対して十分量散布します。その際、スピードスプレイヤーでは主幹・主枝への付着が劣るため、できる限り手散布で対応してください。また、虫糞が粗皮の割れ目から出ている場合は、粗皮を削って生息している幼虫を捕殺します。ただし、過度に粗皮を削ると柔らかいカルスが形成され、後々本虫の再寄生を招くので、削りすぎないよう注意してください。

＜ブドウ＞

〇べと病対策

早期落葉を防ぎ、翌年の伝染源を減らすために、収穫後も本病の防除を行います。薬剤はICボルドー66D　50倍またはＩＣボルドー48Q50 倍を使用します。いずれも防除効果を向上させるために展着剤のアビオンＥ１,000 倍を加用してください。

＜モモ＞

〇せん孔細菌病（モモ）・黒斑病（スモモ）対策

秋季の感染を防ぐために、９月上旬から10月上旬にかけて薬剤を散布します。モモはＩＣボルドー66Ｄ 50倍もしくはＩＣボルドー412　30倍、スモモはＩＣボルドー412　30倍を散布します。特に台風の襲来時の強風雨によって感染が助長されるので、襲来前の防除を徹底してください。

＜カキ＞

〇炭そ病対策

収穫前に降雨が多いと果実で多発生するため、防除を徹底します。特に、台風が通過した後は発生が多くなるため、襲来前には必ず防除を行ってください。

ストロビードライフロアブル3,000倍（収穫14日前まで）やオンリーワンフロアブル2,000倍（収穫前日まで）、ナリアＷＤＧ2,000倍（収穫前日まで）を樹冠上部までしっかりかかるように散布してください。また、炭そ病が発生した夏枝等は果実への伝染源となるので必ず除去してください。

＜キウイフルーツ＞

〇クワシロカイガラムシ対策

９月中下旬頃が３回目の幼虫発生期となるので、モスピラン顆粒水溶剤2,000倍（収穫7日前まで）やアプロード水和剤1,000倍（収穫前日まで）等を散布します。ただし、一部品種では使用できる農薬に制限があるため栽培歴等を確認して薬剤を選択してください。